

# 楽しく美しい まちづくり通信…⑦⑦



にのへの石割桜

## ゆく春は

## 麓も桜

暖冬といわれた今年の冬も、二月・三月と大雪に見舞われ、春の遅れを心配しましたが、四月とともに春めいてきました。季節を感じる風物誌は、人そ

れぞれですが、日本の春といえは「桜」を第一にあげる人も多いと思います。

世の中にたえて桜のなかりせば  
春の心はのどけからまし

「桜の散り際が気になって、気になって…」と在原業平の歌にある桜は、日本の春の花の代表ですが、奈良時代には桜より梅が愛好されていたそうで、平安時代に入ってから、初めて桜が四月の花の王座につきました。

二戸市では、五月の空に泳ぐこいのほりとともに花が咲くのが一般的ですが、代表的な桜として、市の天然記念物（昭和四十八年四月一日指定）である下斗米聖福院、町裏愛宕神社及び福岡長嶺のエドヒガンを今年ぜひご覧いただきたいと思ます。

エドヒガンとオオシマザクラの雑種として観賞用に広く植栽されているのがソメイヨシノですが、これは江戸時代末期に江戸駒込の染井村の植木商から広まったと言われるもので、桜と言えば、ソメイヨシノという人も多いと思います。

市内で一番早く咲くソメイヨシノといわれているのが、消防署前の桜ですが、開花の時期を見る標準木が九戸城跡の桜であることはあまり知られていません。

俗に、「夜目遠目傘の内」という言葉があります。

昼ならば目に付くものも夜の帳にさえざられて美しく見えるという意味ですが、そんな中でも、夜桜の美しさには格別なものがあります。

清水へ祇園をよぎる桜月夜

こよひ会ふ人みなうつくしきと歌人・謝野晶子が歌っておりますが、市民文化会館や川原橋付近の夜桜の美しさはたとえようもなく、桜の下での出会いがなかった青春時代が悔まれます。

他にお勧めしたいのが、「石割桜」と「桂にサクラ」です。

「石割桜」は、盛岡市の裁判所前のものが有名ですが、二戸市の「石割桜」は、金田一の府金橋から湯田に向かう道路わ

き、「宝の誘導板」に従い、坂を下った馬淵川沿いにあります。

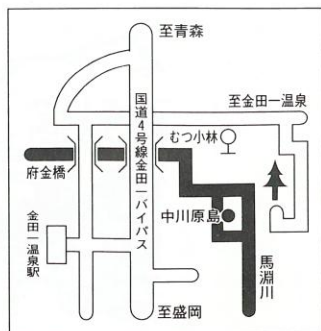
対岸の中川原島からも望むことができ、川の流れに映えて花の咲く様は、一層の風情を感じます。

また、「桂にサクラ」はその名の通り、桂の木にオオヤマザクラの花が咲いたもので、舌崎から海上に向かう県道上斗米金田一線沿いにあります。

花が咲き始めたのは、今から二十年程前とのことで、こちらは「宝の説明板」を目印にご覧ください。

その他、作ヶ久保の「太郎稲荷神社」のソメイヨシノ、山田の「長者屋敷跡」の糸桜（エドヒガン）、夏間木の「山の神様」のエドヒガンなど、「宝」と言われる多くの桜の木があります。

場所など不明な点は、まちづくり推進課までご連絡ください。(☎25-5411)



石割桜案内図

提案された二戸方式

以内は、生け垣など柔らかい建